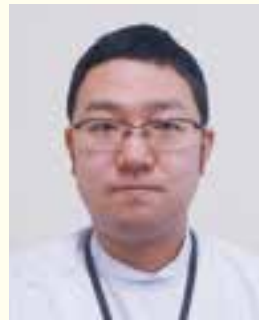


# 健康通信

## TAVI(経カテーテル大動脈弁治療)について

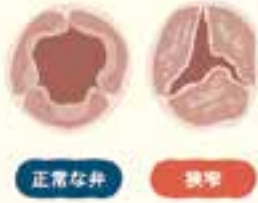


心臓血管外科医師

藤井 太郎

### 大動脈弁狭窄症とは

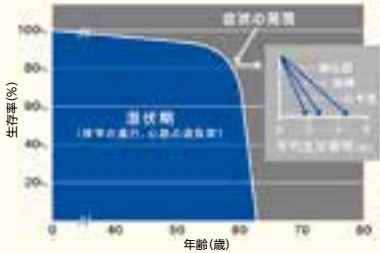
みなさん近年高齢者が増えて大動脈弁狭窄症という病気をお聞きになったことはございませんか。心臓弁膜症の一つで、心臓の出口に位置する大動脈弁が狭窄(狭くなる)することで生じ、進行すれば胸痛や失神、呼吸苦などの症状が出現し、最終的には命に関わる病気です。今回はこの大動脈弁狭窄症に対する新しい治療法であるTAVI(経カテーテル大動脈弁治療)についてご紹介させていただきます。



正常な弁

狭窄

大動脈弁とは心臓の弁の一つで、心臓の出口に位置しております。大動脈弁狭窄症とはこの大動脈弁の開きが悪くなり、心臓の出口が狭窄(狭くなる)ことし、心臓から血液が駆出できなくなることで生じる疾患です。原因としては、加齢による弁の石灰化が最も多くいとされ、高齢化が進む日本では患者さんの数が増えています。軽症のうち症



状がなく、加齢とともに進行し、重症となるにつれ重篤な症状が出現し、突然死に至るケースもあります。

### 治療について

大動脈弁狭窄症に対する治療法として、保存治療、手術治療があります。症状が軽い場合は、薬によって心臓の負担を軽減することを目的とした保存的治療が選択されますが、石灰化にて狭窄してしまった弁の機能を回復することはできず、根本的な治療ではありません。したがって重度化した大動脈弁狭窄症に対しては弁を人工弁に交換するための手術が必要となります。

### TAVIとは

人工弁に交換する方法として、胸を開いて行う外科治療(弁置換術)はこれまで唯一の方法であり、これまで多くの患者さんがこの治療を受けられ、長期の成績が認められております。しかし人工心肺を用いて心臓を停止させて行う心臓手術ですので、体への負担も大きく、高齢で体力の低下し



▲TAVIに用いる人工弁

た患者さんには受けてもらえないこともあります。このような患者さんに対する治療方法として、2000年代にTAVIという新しい治療法が登場し、大きな話題となっております。この治療法ですと人工弁の留置を胸を開くことなく、また人工心肺をいずに行うことができます。具体的には小さく折りたたんだ人工弁を、カテーテルを使って心臓に留置するという方法です。傷も小さく、人工心肺を使用しなくて済むことから、患者さんの体への負担が少ないことが特徴で、入院期間の短縮や、早期の社会復帰が期待されます。よってTAVIは体力が低下している高齢の方や、別に抱えている病気のために外科治療が困難な患者さんに恩恵が大きい治療法と言えます。TAVIの問題点としては、この治療が始まってからまだ日が浅く、長期の成績が明らかではないことが挙げられます。しかし留置する人工弁の機能がどんどん改良され、進歩してきておりますので、今後ますます広がっていく治療であることは間違いなくでしょう。



▲TAVIのイメージ

※画像は全てエドワーズライフサイエンス株式会社提供